

頭頸部領域腫瘍の網羅的ゲノム解析ならびに口腔内微生物叢解析によるその発症メカニズムに関する研究

1. 研究の対象

本研究は、頭頸部領域腫瘍の患者さんが対象です。2011年5月以降に国立がん研究センター中央病院で、「検査試料、生体組織、摘出標本などのがん研究への利用に関するお願い」に同意された患者さんの血液と、手術で摘出された標本のうち、病理組織検査で使用しない余剰検体を研究試料といたします。対象の病気は頭頸部領域腫瘍です。

2. 研究の概要

頭頸部領域腫瘍の患者さんの凍結組織やホルマリン固定パラフィン包埋試料を用いて、遺伝子の塩基配列解析などの頭頸部腫瘍の包括的なゲノム解析を行います。腫瘍のみに異常を起こしている遺伝子を確認するために、血液からは核酸（DNAなど）を抽出しコントロールとして用います。解析は、国立がん研究センターや大阪大学等の研究施設で行います。さらに別途、説明同意文書で説明いたしました、口腔内（口の中）の微生物（細菌など）についても解析いたします。頭頸部領域腫瘍に特徴的な遺伝子変異などを同定し、さらに本腫瘍と関連する微生物を検討することによって、これらの腫瘍の成り立ちを解明し、有効な治療薬の選択や新たな治療薬の開発に道を拓くものです。解析期間を含む研究期間は、研究許可日～2026年3月31日までを予定しています。

3. 研究の意義

本研究で頭頸部領域腫瘍の遺伝子異常の特徴が明らかになれば、遺伝学的な特徴に基づく抗がん剤や分子標的薬剤の選択、標準治療法の確立、さらに新たな治療薬の開発につながります。また、口腔内微生物叢の観点から腫瘍発生メカニズムを解明することができれば、頭頸部領域腫瘍の予防に寄与できるかもしれません。

4. 研究の目的・方法

次世代シーケンサーなどの革新的な技術開発によって、多種多様な遺伝子の情報を大規模かつ高速に得ることが可能となりました。これは腫瘍に関する遺伝子異常の情報のみならず、これまで培養が困難であった未知の微生物等を特定することにも有益な技術です。本研究の目的は、頭頸部領域腫瘍の原因となる遺伝子等を特定すること、さらに頭頸部領域腫瘍に関連する口腔内微生物叢の特徴を解明することです。手術によって摘出され、国立がん研究センター

作成日：2023年5月21日 版数：第1.3版

作成日：2024年3月1日 版数：第1.4版

バイオバンクに保存されている凍結組織やホルマリン固定パラフィン包埋試料から、がん病巣と非がん部組織の一部から、核酸（DNA など）を抽出します。以下の研究組織等に設置されている次世代シーケンサー等の最新のテクノロジーを用いて、網羅的に遺伝子塩基配列の解析や遺伝子の発現などの解析を行います。この研究のために、予定された手術の方法や切除範囲が変わることはありません。通常の顕微鏡などによる病理組織検査に支障を来さない場合のみ、凍結組織は採取され使用します。また、口腔内の微生物環境に関する検討も行います。研究実施期間は6年間です。

5. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴 等

試料：血液、手術で摘出した組織 等

6. 研究組織

- 国立がん研究センター 研究所（研究代表者：柴田龍弘）
- 国立がん研究センター 中央病院（研究代表者：吉本世一）
- 大阪大学大学院 医学系研究科（研究代表者：谷内田真一）
- 埼玉医科大学国際医療センター（研究代表者：菅澤 正）
- 大阪国際がんセンター（研究代表者：藤井 隆）
- 東京工業大学 生命理工学院（研究代表者：山田拓司）
- 慶應義塾大学 先端生命科学研究所（研究代表者：福田真嗣）

7. 問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。この場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター 研究所・がんゲノミクス研究分野 柴田龍弘

FAX：03-3545-3567 TEL：03-3542-2511

作成日：2023年5月21日 版数：第1.3版
作成日：2024年3月1日 版数：第1.4版

研究責任者：

国立がん研究センター 研究所・がんゲノミクス研究分野 柴田龍弘

研究代表者：

国立がん研究センター 研究所・がんゲノミクス研究分野 柴田龍弘